

# 発達障害の特性別評価法 (MSPA) の社会実装

京都大学 大学院人間・環境学研究科 教授 船曳 康子



## 科学研究費助成事業(科研費)

テーラーメイド型支援に向けた広汎性発達障害の行動・認知特性でのサブタイプ分け (2007-2008 特別研究員奨励費)

発達障害の特性分布の掌握と多特性複合の客観的指標の開発 (2010-2013 若手研究 (B))

- ・厚生労働省科学研究費 (障害者対策総合研究事業: 精神障害分野) 「発達障害者の特性別適応評価用チャートの開発」(2009-2011)
- ・科学技術振興機構 社会技術研究開発センター (RISTEX): 「発達障害者の特性別評価法 (MSPA) の医療・教育・社会現場への普及と活用」(2014-2017)

発達障害とは、先天的な脳機能の特性により偏った言動が出てしまうなど、社会生活上の困難を伴う状態である。病気とは異なり、周囲の理解やサポートにより支障を軽減することが可能であり、早期の支援が重要となる。しかしながら、発達障害には自閉スペクトラム症、注意欠如・多動症、学習障害など様々なタイプがあるのみならず、その発現も個人差が大きく、支援の前提となる障害の評価を適正に行うことが困難という課題があった。



こうした背景から、発達障害者の認知機能についての基礎研究や評価手法の検討を積み重ね、その成果を医療や教育の現場で実装するため、発達障害者の持つ生活困難度 (要支援度) を認知・行動特性別に多面的に評価し、一目で分かりやすく図示した評価法MSPA (Multi-dimensional Scale for PDD and ADHD) を作成した。



さらに、教育関係者との協働によるMSPAを活用してもらうためのマニュアル作りや、医療機関や学会への提案・働きかけなどにも取り組んだ。こうした活動の結果、2016年4月1日よりMSPAが保険収載となった。今後、医療・教育・自治体等の機関における発達障害者への支援において大きく貢献することが期待される。

- 知的障害を伴う自閉症
- アスペルガー障害
- 注意欠如・多動性障害 (混合型)
- 知的障害を伴わない自閉症
- 特定不能型広汎性発達障害
- 注意欠如・多動性障害 (不注意優勢型)

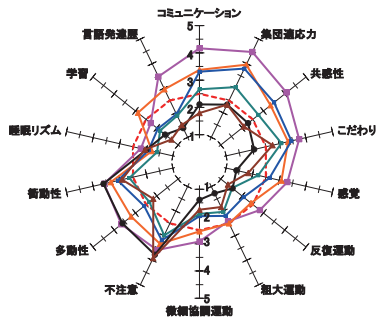


図1 診断 (旧) ごとの平均値  
 ・どの診断でも不注意の困りが多い  
 ・発達障害の下位分類は類縁である可能性を示唆

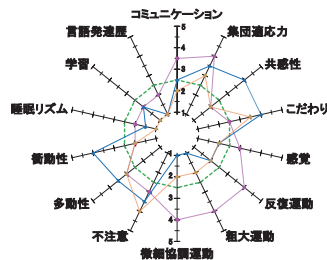


図2 MSPAの完成 (上図: イメージ図) 下図は自閉スペクトラム症の3例で、同じ診断でも特性は種々であることを示す